

## 海運<経営・全般>

2019年10月28日

# Vシッピング、専門組織で日本対応 日本4カ所でセミナー、ライトシップ・SOxなど船主に 情報提供



独立系船舶管理大手Vシッピングは専門組織を通じて日本市場への対応を強化している。邦船大手や地方の専業船主などから約20隻の船舶管理を受託しており、ケミカル船を中心に管理船の多様化を図っている。日本市場への展開を強化する一環で、11月に東京、広島、今治、大阪の4カ所でセミナーを開催し、硫酸化物（SOx）規制対応、バルカーの船舶管理に関わるライトシップの評価などに関する最新情報を船主に提供する。このほど釜山港で発生したケミカル船爆発事故を題材として船舶事故の考察も行う。

昨年、日本市場の担当組織として「ジャパン・フリート・セル」をアジアの主要拠点であるシンガポールに設置した。同組織は約20人で構成。シンガポール法人であるVシッピング・アジア・グループのアヌラグ・マサー（写真）マネージング・ダイレクターが同組織を率い、Vシッピング傘下

の船舶管理会社セランディアで長年日本市場を担当してきたプラディーブ・ウニ氏がジェネラルマネージャーを務める。

さらに5年前からアドバイザリー契約のあるマリーナベイ SHIPPING 社（福島謙治 マネージング・ダイレクター）とのパートナーシップを強化、同社が日本での営業プロモーションを担うとともに、カスタマーサポートとして、日系商社の船舶・船用機器などの部門で経験豊富な野須宏悦氏（住商マリン元社長）を「ジャパン・フリート・セル」専属スタッフとして配置、日本でのアフターサービスを提供している。

Vシッピングは大規模な船隊を管理するが、きめ細かな管理サービスを提供するために船舶の特色や市場ごとに「フリート・セル」という組織を設置している。「ジャパン・フリート・セル」もその一つだ。アナラグ・マサー氏は本紙取材で「『フリート・セル』は顧客に対する良質なサービスの提供に責任を持つ。この組織にはテクニカル、マリン、購買、アカウントティングなどのあらゆる機能の担当者を配置している。このほか、船員関係、ベッティング関係などのサポート機能を持った組織もあり、フリート・セルの活動を支えている」と説明。「Vシッピングの規模によって船主にアドバンテージを提供できるとともに、船主と同じタイムゾーンで“ローカルな”サービスを提供できる体制を整えている」と語った。日本船主ならではの歴史や文化を学び、日本市場にあったサービスの提供が最重要であり、まずは日本船主からのニーズを正確に把握、学びたい考えだ。

Vシッピングは管理船が約1000隻（船員配乗のみの管理船含む）、船員プールが約4万4000人に及ぶ船舶管理業の世界的な大手。世界30カ国に約60の拠点を持ち、陸上のスタッフは3000人以上に上る。シンガポールは同社にとってアジア最大の拠点で、管理船は約60隻、このうち日本船主向けが約20隻となっている。

---

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.